

〈論 文〉

# 小児看護実習後の看護学生の乳幼児に対するイメージ

細野 恵子, 上野美代子

市立名寄短期大学

「紀要」第41巻 抜刷

2008年3月

〈論 文〉

## 小児看護実習後の看護学生の乳幼児に対するイメージ

細野 恵子, 上野 美代子

### The image of infants among nursing students after completion of pediatric nursing training

Keiko HOSONO, Miyoko UENO

This study investigates 47 college-level nursing students with the aim of clarifying issues in pediatric nursing education. Students were given a survey to evaluate their image of infants both at the onset of their pediatric nursing practicum and then again near graduation, after they had completed all their specialized training sessions. Results were compared and factors contributing to a change of image were examined. An affirmative practicum experience was found to be a contributing factor in the formation of a positive image towards children. Additionally, the nursing school practicum component of the pediatric nursing training program, where students dealt most directly with small children, was shown to be the most significant and effective training experience in shaping students' image of children. Results of this survey indicate the necessity of having a pediatric nursing curriculum that has students interact with small children at an early stage of the program.

本研究は小児看護学の教育課題を検討する目的で、短大看護学科の学生47名を対象に、乳幼児に対するイメージに関連する質問紙調査を行った。小児看護実習と他領域の看護実習を終了した卒業に近い時期の調査結果を小児看護学開始時に行った調査結果と比較して、乳幼児のイメージの変化と影響要因について検討した。実習後の学生の乳幼児に対する思いやイメージは、乳幼児の存在を肯定的に受け止めているものがほとんどであった。また、小児看護実習の一つとして、保育所は子どものイメージ形成や扱い方を実感する上で大きな影響を及ぼす有効な実習場であることが明らかになった。今後の小児看護学における教育課題としては、早期の段階で乳幼児との関わりがもてるカリキュラムを設定することの必要性が示唆された。

キーワード：乳幼児のイメージ、小児看護実習、看護学生、教育課題

#### 1. はじめに

近年の核家族・少子社会は、学生が子どもと接触する機会を著しく減少させることによって、小児看護学の教育を困難にしている。学生は生活体験の中で子どもと触れ合う機会が殆ど無いことから、子どもに対するイメージは乏しく、偏りも生じていると考えられ、子どもとの触れ合いやコミュニケーションが基盤となる小児看護の教育ではこの問題を克服するためのさまざまな工夫がなされている。看護学生が、子どもに対してどのようなイメージをもっているかを把握することは人の成長・発達過程を学ばせる上で意義があり、小児看護学の履修目標の到達度を判定する一指標になり、教育評価につながる。それらは、看護学生の子ども観に関する研究<sup>1) - 4)</sup>、子どもに対するイメージの研究あるいは実習前後における子どものイメージ変化の研究<sup>5) - 13)</sup>、子どものイメージに及ぼす影響要因に関する研究<sup>14) - 15)</sup>、子どもの理解を深める学習方法の検討<sup>16) - 17)</sup>などで報告されている。研究者らが担当する実習場において、学生の受持ち対象は乳幼児である。看護学生の子どものイメージに関する報告では乳幼児を対象としたものはほとんどなく、参考にする文献が得られないことから、研究者らの教育実践を乳幼児に限定したイメージ調査としてまとめることにした。本来は卒業時の到達度を評価すると良いと思われるが、その時期の調査には種々の困難を伴うので、小児看護実習の終了直後ではなく、他領域の看護実習をも終了した卒業に近い統合評価のできる時期に調査することとした。

## II. 研究目的

本研究は、研究者らが担当する小児看護学の教育評価の一端として行われたもので、看護学生の乳幼児に対するイメージの変化および影響要因について検討することを目的とする。

## III. 研究方法

### 1. 調査対象

対象はA短期大学看護学科の平成17年度入学生47名とし、2年次の小児看護学開始時に実習前調査を行い、3年次の小児看護実習と他領域の看護実習5科目以上が終了した時期に実習後調査を行う。他領域の看護実習とは、基礎看護実習Ⅱ・老年看護実習・成人看護実習・母性看護実習・精神看護実習・在宅看護実習である。

### 2. 調査方法

調査方法は自記式質問紙調査で、質問紙は先行研究<sup>15) - 16)</sup>を参考に独自で作成した。主な調査項目は乳幼児に対する思いとして、好き・嫌いの別とその理由、乳幼児の扱いの得意・不得意の別とその理由、乳幼児に対するイメージとその理由、実習前後のイメージの変化および影響した小児実習の内容についてである。

実習前調査は平成18年4月に行い、実習後調査は平成19年9月～10月に行った。

実習前調査は小児看護学の講義教室で一斉に配布し、その場で記載させ、回収した。実習後調査は教室に集合し、その場で配布・記載・回収を行った。

配布数47、回収数47、回収率100%であった。

### 3. 分析方法

数量化したデータは記述統計による量的分析を行い、記述的データは質的分析を行った。記述データの質的分析は、文脈ごとに意味内容をコード化した上で類似するコードを分類してサブカテゴリー化し、さらに類似したサブカテゴリーをカテゴリー化した。質的分析の妥当性を高めるため、カテゴリー化したデータの照合を共同研究者間で比較・検討した。数量化したデータからは全体の傾向や特徴を把握し、質的データから類似点と相違点を検討した。

### 4. 倫理的配慮

調査を依頼する学生には1回目調査時に、文書と口頭により研究主旨および無記名・自記式調査であることを説明した。また、研究協力は任意であり、協力しない場合でも不利益は生じないこと、成績評価には一切関係しないこと、調査結果は統計的に処理され個人の特定はされないこと、研究以外の目的で使用しないこと、得られた結果は論文や学会での発表予定があることを説明し、同意した場合は回答を提出するように説明した。2回目調査の際も文書で説明し、同様の口頭説明を繰り返し行った。

## IV. 結果

### 1. 乳幼児に対する好き・嫌いの別

「乳幼児の子どもが好きか」という問いに対して、実習前調査では、「大好き」が4名(8.5%)、「好き」が40名(85.1%)、「どちらでもない」が2名(4.3%)、「無回答」が1名(2.1%)であった(図1)。実習後調査では、「好き」26名(55.3%)、「どちらかといえば好き」11名(23.4%)、「どちらでもない」9名(19.1%)、「どちらかといえば嫌い」1名(2.1%)、「嫌い」0名であった(図2)。実習前調査に「好き」と「大好き」の回答の合計が44名(93.6%)であったのに対して、実習後調査では「好き」と「どちらかといえば好き」の回答の合計が37名(78.7%)であり、全体数の比較では「好き」の回答数が減少し、「どちらでもない」の回答数が増加していた。

### 2. 乳幼児に対する好き・嫌いの理由

実習後調査では好き・嫌いの理由を質問した。その記述を分析すると、【かわいい】【癒される】【親しみやすい】【対応できない】【好きではない】の5カテゴリーが抽出され、それぞれに2～6のサブカテゴリーが含まれていた。

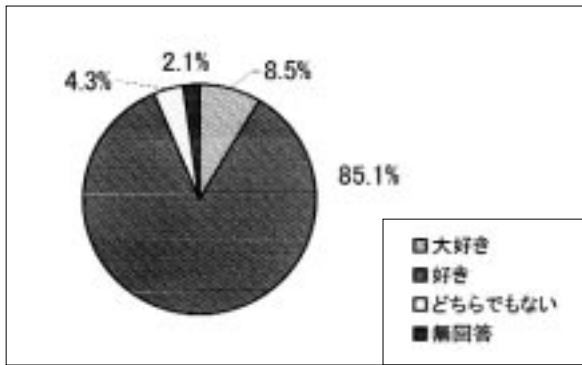


図1. 乳幼児に対する好き・嫌いの別：実習前

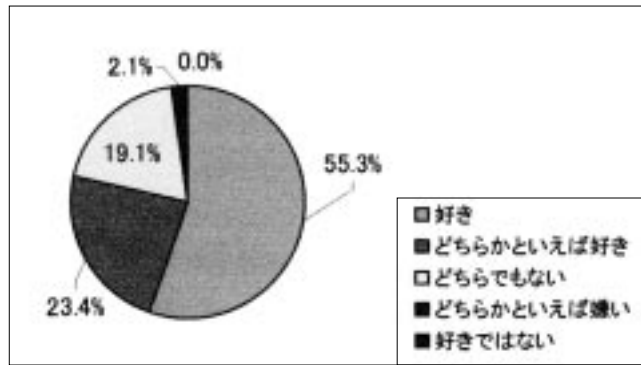


図2. 乳幼児に対する好き・嫌いの別：実習後

以下に、カテゴリーを【 】で、サブカテゴリーを『 』で示し、( )内にコード数を示す。

【かわいい】には『可愛い』(6), 『小さい』(3), 『柔らかい』(1), 『保護したくなる』(1)の4サブカテゴリーが含まれていた。【癒される】には『素直だ』(5), 『純粹だ』(1), 『新鮮だ』(1), 『楽しい』(2), 『暖かい』(1), 『癒される』(5)の6サブカテゴリーが含まれていた。【親しみやすい】には『親しみやすい』(5), 『面白い』(1), 『好奇心旺盛だ』(1), 『微笑ましい』(1)の4サブカテゴリーが含まれていた。【対応できない】には『わがまま』(4), 『疲れる』(1), 『扱い方がわからない』(3)の3サブカテゴリーが含まれていた。【好きではない】には『場合によって』(4), 『もともと好きではない』(1)の2サブカテゴリーが含まれていた。

### 3. 乳幼児に対する好き・嫌いに小児看護実習が影響した・しないの別

「乳幼児に対する好き・嫌いに小児看護実習が影響したかどうか」について、実習後調査で質問した。「影響した」は7名(14.9%)で、「どちらかといえば影響した」が15名(31.9%),「どちらでもない」は10名(21.3%),「どちらかといえば影響しない」が5名(10.6%),「影響しない」は10名(21.3%)であった(図3)。影響した小児看護実習の内容は、「保育所実習」が36名(76.6%),「小児科外来実習」が2名(4.3%),「小児科病棟実習」は7名(14.9%)で、「無回答」が2名(4.3%)あった(図4)。

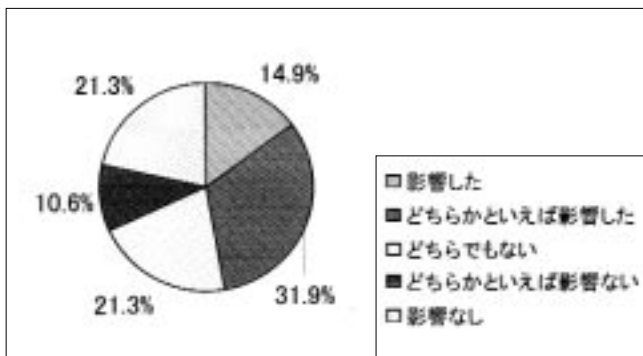


図3. 好き・嫌いに小児看護実習が影響した・しないの別

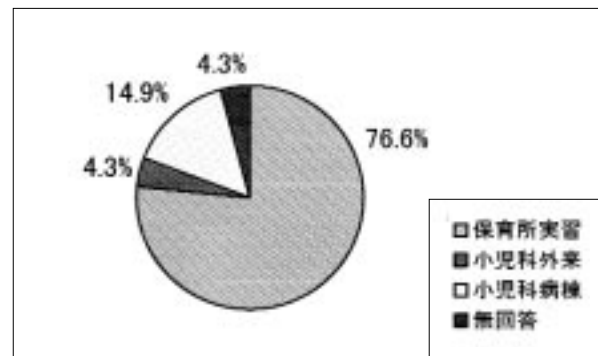


図4. 影響を及ぼした小児看護実習の内容

### 4. 乳幼児の扱いの得意・不得意の別

「乳幼児の扱いは得意か」については、実習前調査では「得意」21名(44.7%),「得意ではない」10名(21.3%),「不得意」15名(31.9%)で、「無回答」が1名(2.1%)あった(図5)。実習後は「得意」4名(8.5%),「どちらかといえば得意」15名(31.9%),「どちらでもない」14名(29.8%),「どちらかといえば不得意」10名(21.3%),「不得意」4名(8.5%)であった(図6)。

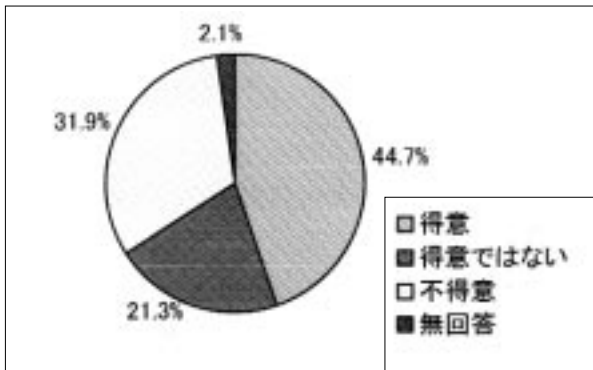


図5. 乳幼児の扱い得意・不得意の別：実習前

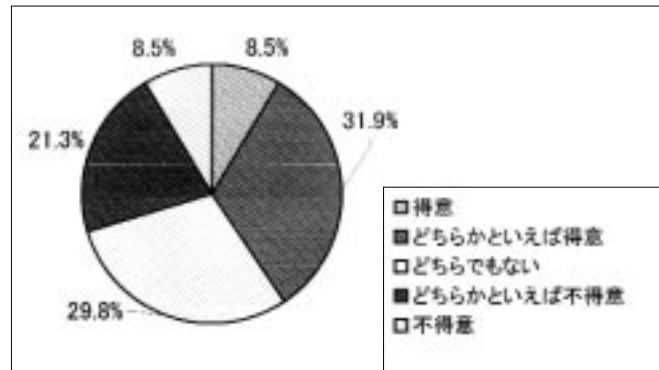


図6. 乳幼児の扱い得意・不得意の別：実習後

### 5. 乳幼児の扱いの得意・不得意の理由

実習後調査では得意・不得意の理由を質問した。その記述を分析すると次に示す8カテゴリーが抽出され、それぞれに2～4のサブカテゴリーが含まれていた。【経験がある】には『近所の子どもの関わり』(4), 『きょうだいの世話の経験』(2), 『いとこの世話の経験』(2)の3サブカテゴリーが含まれていた。【実習での成功体験】には『行動化』(2), 『喜ばせられた』(1), 『上手い扱い』(1), 『十分な時間』(1)の4サブカテゴリーが含まれていた。【子どもが好き】には『好き』(2), 『好きという気持ち』(2), 『誠実』(1)の3サブカテゴリーが含まれていた。【子どもに共感できる】には『自分も子ども』(2), 『子どもと合う』(1), 『元気は負けない』(1)の3サブカテゴリーが含まれていた。【経験がない】には『子どもとの関わりなし』(4), 『慣れていない』(1)の2サブカテゴリーが含まれていた。【実習での不成功体験】には『戸惑う』(3), 『話ができない』(2), 『適切でない関わり』(1)の3サブカテゴリーが含まれていた。【子どもによっては苦手】には『苦手なタイプの子ども』(3), 『上手く関われない子ども』(2)の2サブカテゴリーが含まれていた。【子どもは苦手】には『教えるのは苦手』(1), 『馬鹿にされる』(1)の2サブカテゴリーが含まれていた。

【経験がある】【実習での成功体験】【子どもが好き】【子どもに共感できる】の4カテゴリーに含まれるコードは、すべて「得意」の回答者の記述に含まれていた。

### 6. 乳幼児の扱いの得意・不得意に小児看護実習が影響した・しないの別

実習後調査では乳幼児の扱いの得意・不得意に小児看護実習が影響したかどうかについて質問した。「影響した」は7名(14.9%)で、「どちらかといえば影響した」は12名(25.5%),「どちらでもない」は15名(31.9%),「どちらかといえば影響しない」は4名(8.5%),「影響しない」は9名(19.1%)であった(図7)。影響した小児看護実習の内容は、「保育所実習」が32名(68.1%),「小児科外来実習」が5名(10.6%),「小児科病棟実習」は6名(12.8%)で、「無回答」が4名(8.5%)あった(図8)。

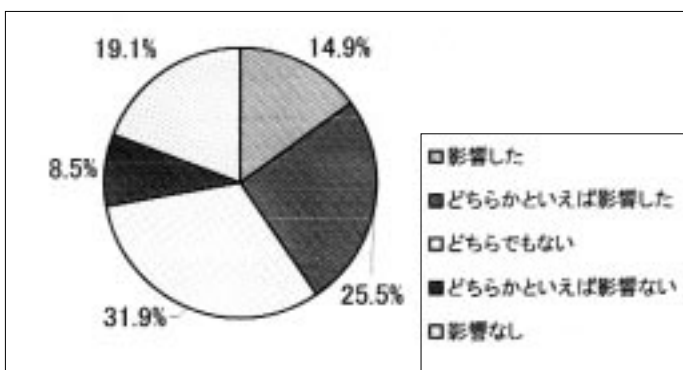


図7. 得意・不得意に小児看護実習が影響した・しないの別

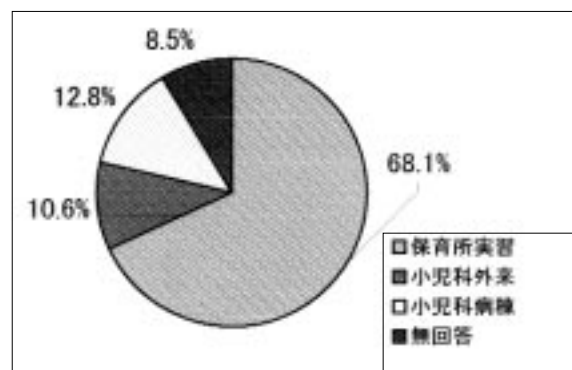


図8. 影響した小児看護実習の内容

7. 乳幼児のイメージ

乳幼児に対するイメージのうち、実習前調査の記述分析から5カテゴリーが抽出された。それらにはそれぞれ1～5のサブカテゴリーが含まれていた。【かわいい】には『可愛い』(7), 『守られた存在』(6), 『小さい』(5), 『柔らかい』(5), 『か弱い』(3) の5サブカテゴリーが含まれていた。【元気】には『元気だ』(13), 『変化』(7), 『純粹・素直・無邪気だ』(6), 『明るい』(2) の4サブカテゴリーが含まれていた。【成長発達】には『好奇心』(7), 『成長発達』(5), 『真似』(4) の3サブカテゴリーが含まれていた。【わがまま】には『わがまま』(9), 『感情』(6) の2サブカテゴリーが含まれていた。【危険】には『危険』(3) の1サブカテゴリーが含まれていた。

実習後調査の記述分析からは3カテゴリーが抽出された。それらにはそれぞれ3～7のサブカテゴリーが含まれていた。【かわいい】には『可愛い』(7), 『繊細』(5), 『小さい』(3), 『柔らかい』(2), 『丸い』(1) の5サブカテゴリーが含まれていた。【元気】には『元気だ』(6), 『活発だ』(6), 『素直だ』(8), 『感情豊かだ』(5), 『明るい』(4), 『好奇心旺盛だ』(4), 『騒がしい』(2) の7サブカテゴリーが含まれていた。【対応が難しい】には『対応が難しい』(2), 『自己中心的』(1), 『個人差が大きい』(1) の3サブカテゴリーが含まれていた。

8. 乳幼児のイメージの変化

実習前調査と実習後調査における乳幼児のイメージの変化を見ると、「肯定的感情⇒肯定的感情」は38名(80.9%), 「否定的感情⇒肯定的感情」は7名(14.9%), 「否定的感情⇒否定的感情」は1名(2.1%), 「肯定的感情⇒否定的感情」は1名(2.1%)であった(図9)。すなわち、実習後肯定的感情の学生45名(95.8%), 否定的感情の学生は2名(4.2%)であった。

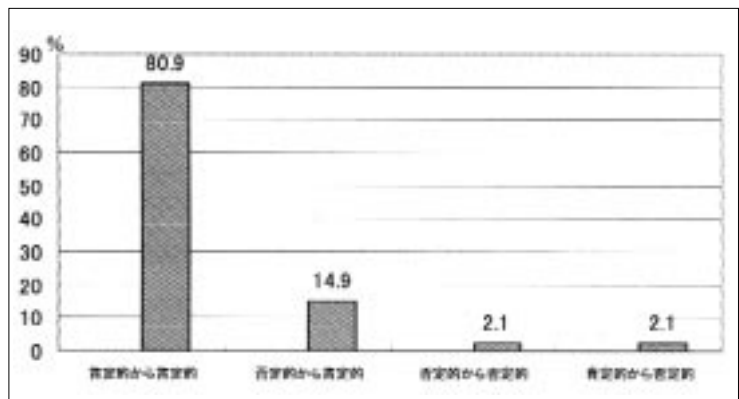


図9. 小児看護実習前後の乳幼児のイメージの変化

9. 乳幼児のイメージの変化に小児看護実習が影響した・しないの別

実習後調査では、乳幼児のイメージの変化に小児看護実習が影響したかについて質問した。「影響した」は6名(12.8%), 「どちらかといえば影響した」は14名(29.8%), 「どちらでもない」は15名(31.9%), 「どちらかといえば影響しない」は1名(2.1%), 「影響しない」は10名(21.3%)であり、「無回答」が1名(2.1%)であった(図10)。影響した小児看護実習の内容は、「保育所実習」が29名(61.7%), 「小児科外来実習」が6名(12.8%), 「小児科病棟実習」は7名(14.9%)であり、「無回答」が5名(10.6%)あった(図11)。

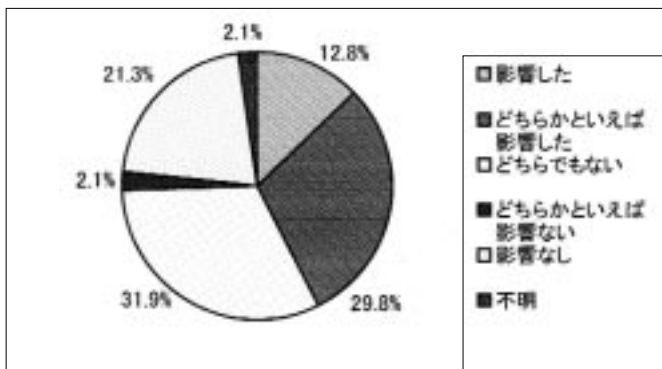


図10. 乳幼児のイメージへの小児看護実習の影響

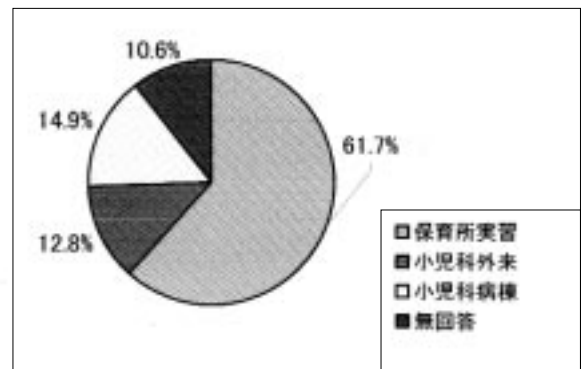


図11. 影響を及ぼした小児看護実習の内容

V. 考察

乳幼児に対する思いとしての好き・嫌いの問いに対する結果と、乳幼児の扱いの得意・不得意の問いに対

する結果については、小児看護実習担当者として好ましい結果と考えられた。それらには「乳幼児が好きという思い」や「実習での成功体験」、「子どもへの共感」などが影響しており、保育所実習の成果と考えられる。一方、「子どもとの関わり経験のなさ」や「扱いに困難さを感じる」という結果は、直接的な子どもとの関わり経験が不得意感に影響している<sup>18) 19)</sup>と考えられ、臨地実習後の実習まとめの方法を工夫する必要がある。

学生の乳幼児に対するイメージは、乳幼児の存在を肯定的に受け止めているものがほとんどであった。このことは、乳幼児に対する思いである好き・嫌いの理由の記述から抽出されたカテゴリー【かわいい】と一致し、乳幼児の特性的な容姿や感覚的な印象によるものと思われ、上山<sup>20)</sup>や谷本ら<sup>21)</sup>も同様の報告をしている。他には、躍動感や活発性を表す【元気】、直接体験から得られた【対応が難しい】というカテゴリーも抽出され、実習経験の影響が考えられる。また、実習前後における乳幼児のイメージの変化については、否定的感情から肯定的なものに変化した学生がおり、実習体験は肯定的イメージにつながったことが認められる。実習前のイメージの記述と比較すると、否定的イメージの記述が減少し、より具体的な記述に変化したことから、子どもとの直接体験は学生の漠然としたイメージを具体的なものに変化させ、対象理解を深めたと推測される。また、乳幼児のイメージに影響を与える場として保育所実習が6割、病院実習が3割挙げられており、それぞれの場での経験がイメージの幅を広げることにつながったことが示された。

このように予想以上に大きな影響を及ぼし、その有効性が示された保育現場での実習は、生活体験が乏しく子どもとのふれあいも少ない最近の学生にとって、乳幼児を肌で実感できる絶好の場と考えられる。少しでも早く乳幼児を知る機会が得られることは、小児看護学を学ぶ学生にとって、具体的な対象把握につながるという点で大きな意味をもつものである。また、乳幼児とじかに触れ合うことは、学生が乳幼児に興味をもつきっかけづくりとなり、彼らの可能性を引き出す機会になると思われる。以上のことから、小児看護学の課題は、乳幼児とのふれあい体験の場をできるだけ早期に設定するカリキュラム作りである。生活体験の乏しい学生にとって、乳幼児をより身近な存在と認識できるための直接体験は、視野の拡大や自己の可能性を探るきっかけ作りとして重要と思われる。

## VI. 結論

本研究において、学生の乳幼児に対する思いやイメージは乳幼児の存在を肯定的に受け止めているものがほとんどであった。また、小児看護実習の一つである保育所実習は、子どもに対するイメージ形成や扱い方を実感する上で大きな影響を及ぼす有効な実習場であることが明らかになった。今後の小児看護学における教育課題は、早期の段階で乳幼児との関わりが持てるようなカリキュラムを設定することの必要性が示唆された。

## VII. おわりに

A短期大学は平成18年度より4年制大学に移行し、それに伴って研究者らも4年制大学教育における小児看護学を担当、平成20年度より授業が開始される。本研究から得た、保育所実習の学習効果を小児看護学のカリキュラムにできるだけ早期に組み入れることを検討しているところである。

## 引用文献

- 1) 草場ヒフミ, 吉田由美, 井上映子, 梶山祥子; 看護学生の子ども観—数量化Ⅲ類による統計的分析—, 第20回日本看護学会集録集(看護教育), 89-92 (1989)
- 2) 出野慶子, 新田麗子; 看護学生の小児観—小児看護学履修前の学生の幼児に対する認識—, 帝京平成短期大学紀要, 2, 23-28 (1992)
- 3) 園田悦代, 市島昭子; 看護学生の子ども観, 京都府立医科大学医療技術短期大学部紀要, 4, 21-25 (1994)
- 4) 中新美保子; 看護学生の子ども観の変化—小児看護学履修前に視点をあてた10年前との比較—, 第25回日本看護学会集録(看護教育), 138-140 (1994)

## 小児看護実習後の看護学生の乳幼児に対するイメージ

- 5) 内田雅代, 桜井 幸, 中村美保, 兼松百合子, 義武香代子, 武田淳子; 小児看護実習前, 実習後のこどものイメージについて, 千葉大学看護学部紀要, 11, 47-51 (1989)
- 6) 内田雅代, 古谷佳由理, 兼松百合子, 中村美保; 小児看護実習における学生のこどもに対するイメージの変化について, 千葉大学看護学部紀要, 15, 35-43 (1993)
- 7) 古谷佳由理, 内田雅代, 兼松百合子, 武田淳子, 丸光恵; 小児病棟実習前後における学生のこどもに対するイメージの変化について—受け持ち患児の年齢, 実習病院, 学生の不安・認識の違いより—, 千葉大学看護学部紀要, 17, 97-104 (1995)
- 8) 市江和子; 小児看護学において看護学生が子どもに対してもつイメージの変化, 第28回日本看護学会集録(看護教育), 140-142 (1997)
- 9) 草野美根子, 寺田敦子, 今福ひとみ, 福池ゆかり, 杉本暁子, 大久保薫, 酒見敬子, 中淑子, 内海滉; 小児看護実習における看護学生の子どもに対するイメージの変容—病棟実習と保育園実習の因子分析的検討—, 第28回日本看護学会集録(看護教育), 143-145 (1997)
- 10) 谷本公重, 猪下光, 尾方美智子; 看護学生の幼稚園・保育園実習前後における子どもへの認知とイメージの変化, 香川医科大学看護学雑誌, 3 (2), 7-14 (1999)
- 11) 佐藤眞由美, 西山裕子; 看護学生のもつ子どものイメージ, 大阪医科大学附属看護専門学校紀要, 7, 31-36 (2001)
- 12) 岩本真紀, 近藤美月; 看護学生の子どものイメージに関する実態調査, 香川医科大学看護学雑誌, 6 (1), 137-142 (2002)
- 13) 河上智香, 藤原千恵子, 上野恵美子, 谷口佳生理; 4年制看護系大学の学生が持つ子どもイメージの構造, 第34回日本看護学会論文集(看護教育), 103-105 (2003)
- 14) 谷原政江, 登喜玲子, 中西啓子; 看護科学生の子供に対するイメージとそれに影響する要因—第2報—, 第24回日本看護学会集録(看護教育), 160-162 (1993)
- 15) 牛澤美恵子, 北島靖子; 小児看護学実習における学生の子どもに対するイメージの変化とその変化に影響を与える実習条件, 順天堂医療短期大学紀要, 6, 14-24 (1995)
- 16) 藤原千恵子; 子どもを理解を深める学習方法の検討, 第22回日本看護学会集録集(看護教育), 263-266 (1991)
- 17) 上山和子; 看護学生の子どもに対するイメージ変化と小児看護学の授業方法について, 新見公立短期大学紀要, 20, 125-133 (1999)
- 18) 前掲書5) 49-50 (1989)
- 19) 前掲書6) 41 (1993)
- 20) 前掲書17) 130-132 (1999)
- 21) 前掲書10) 12-13 (1999)